

# 数十分前まで売り物／消費期限内商品も

大量に捨てられる消費期限をちょっと過ぎたパンや少し傷んだだけの野菜などが象徴する、行き過ぎた消費者中心主義や資本主義を考え直す動きがある。食べられる食品ごみを探して利用することで資源・環境保護を訴えるグループ「フリーガン」。彼らが主催する「トラッシュ（ごみ）ツアー」に同行取材した。

# 食品ごみは

# 宝の山



④パン店のごみ袋を開くと、まだ堅くなっていないベーグルが大量に出てきた  
⑤スーパー前のごみ袋から回収された大量の食品を分け合う参加者たち



## NYのグループ回収・食事会

「フリーガン」は、「フリー（自由、無料）」と「ビーガン（完全菜食主義者）」からの造語で、運動の起源は一九

で、仕事を待たずに廃屋に住み、ケーキ、高級スーパーな

九〇年代半ば。大量生産・大量消費の資本主義経済への関与を最小限にする簡素なライフスタイルを提唱している。ニューヨークで約四年前にできたこのグループは、トラッシュツアーや回収した食品品による食事会のほか、自転車修理のワークショップ、イベントでの無料食品配給、討論会などを行っている。きち

んでいる人もいる。ツアーは、夜九時半に始まった。十五人ほどの参加者に、見物人や飛び入りも加わり、回収場所のスーパー前は結構なにぎわいだ。初心者に食品の安全性や回収手順を説明するのは、高校教諭で活動歴三年のジャネット・ケリーリッシュさん(44)。「ここにあるのは、消費期限を過ぎたばかりの食品や傷のある野菜など、数十分前まで店頭に並んでいた商品。ごみ袋は結び目をほどき中身を取り出した後はきちんと結び直す。散らかさないでね」ときびきき指導する。見る見る積み上がる回収食品の傍らで初参加の大学生、リア・クラウスさん(22)がパンの味見をしている。「店頭に並んで一日たっただけの物。味の問題はない。ごみをあさることに抵抗はあつたが、ツアーは文化的に刷り込

まれたものだ」

果物、野菜、パン、ベーグル、豆腐、サラダ、鶏の丸焼

を共有していることを思い出し、一人一人が小さな節約から始めてもらいたい」と訴えている。(ニューヨーク時事)